

動物園や水族館で飼育されている生き物たちの「サポーター」制度が、来年度にも姫路市で創設される。市民サポーターからの寄付で餌代などの一部を賄う一方、それぞれの獣舎や水槽などにサポーターの名前を掲示したり、無料入場券を配布したりして「市民が支える施設」としての魅力アップを図る。

姫路市 来年度にも

動物園の獣舎などに寄付者名 「サポーター」制度導入へ

05.12.7 産経

「生き物サポーター」制度は、神戸市・王子動物園の「動物サポーター」、横浜市・「よこはま動物園ズーラシア」の「アニマルベアレント」などの例を参考に、姫路市行政システム改革本部が発案した。

動物園と水族館の二施設を管理・運営する姫路市が、施設の老朽化や入園料収入の伸び悩みなど、問題を抱えることから、自主財源の確保や入園者の増加をねらって、サポーター制度導入の検討を始めた。

制度の内容は、市民や法人などから、動物園や水族館に一定額の寄付をしてくれる「サポーター」を募集。それぞれの獣舎や水槽などにサポーターの氏名や法人名などを掲げるほか、サポーターには無料入場券を配

布したり、餌やりなどの世話の体験が出来る機会を設けたりするという。年間の餌代は動物園の場合、約二千万円。このうち、どの程度を寄付で賄えるかは不明だが、同市は「姫路は動物園と水族館の二つの施設を合わせ持つ全国的に数少ない自治体。財政的なメリットよりも、『市民が施設を支えている』という市民参画の意識を盛り上げたい」と話している。